

無足場工法による 外裝修繕工事

東京外装メンテナンス協同組合 (TEC)

理事 茂木 健一

vol.
13

塗装工事の最難関、塗料の飛散防止策

前号で、塗装工事の第2回として、使用する塗料について説明しました。

塗装工事を無足場工法で行うにあたっては、さまざまな課題に直面し、それらを乗り越えてきました。今回から、その苦労話とともに塗装工事の作業面についてお伝えしたいと思います。

油性塗料は、一度付着すると除去は困難

塗装工事における一番の難点とは、どんなことが考えられるでしょうか？

それは、塗料（色つき）の乾燥不良により、塗料が人や物に付着してしまうことです。

皆様も、公共の施設や工事現場で「ペンキ塗りたて」の表示を一度は見たことがあるのではないのでしょうか？ また、自分の身体や衣服やかばんなどの持ち物に、誤って塗料が付着したことはないのでしょうか？

前回、塗料には水性と油性があることを説明しました。塗料が付着した場合、それが水性塗料ならすぐに水で拭けば除去できますし、付着してから時間が経過しても、経年によりいつかは除去されます。しかし、これが油性の場合ですと、そうはいきません。溶剤（シンナー等）を使用しないと除去できず、ものによっては、まったく除去できない場合があります。

塗料は流動物！ 気づかないまま飛散することも

この塗料の付着（塗料の飛散）が、無足場工法では大変な問題となりました。

塗装は建物内部ならば、付近への立ち入り禁止措置をし、塗装施工後は乾燥するまで、周囲への注意喚起の表示がされます。また、風雨の影響を受けないため、作業環境的には良好です（臭気がこもる問題はありますが……）。

これを外壁塗装で、かつ無足場で行った場合、どうなるのでしょうか？

最大の問題となるのが、塗料の飛散です。それにより、ご依頼いただいたお客様だけでなく、周囲の建物や周辺の方にもご迷惑をおかけすることもあるのです。

実作業をしてわかったことですが、シールやタイルは形のある固形物であるのに対し、塗料は流動物であるため、少しのミスや取り扱いを失敗すると、塗料の飛散や流出によって、周囲へ悪影響を及ぼします。

連載第2回（2016年6月号）でもお伝えしましたが、足場を組む場合（写真1）と異なり、無足場では当然、身体保持（バランスを保つこと）が難し

（写真1）足場を組む場合（仮設足場+養生ネット）





▲簡易足場の設置



▲塗装作業の様子



建物が隣接している場所や通りに面した場所では、常に周囲に気を配る必要がありますが、簡易足場や養生ネットを設置することで作業に集中でき、安全安心な作業を行えるようになりました

い状態となります。そのため、作業員自身が十分に注意を払って塗料を取り扱いながら作業しても、気づかぬうちに塗料が飛散し、人の身体や衣服や車に飛散していたという事象がありました。

また、バランスを崩して塗料をすべてこぼしてしまったり、作業員自身の身体に付着した塗料が、隣の建物に触れて付着させてしまったこともありました。塗装工事を始めた当初は、たくさんのクレームをいただきました。

簡易足場と養生ネットの設置で、品質UP

そこで考案したのが、簡易足場と養生ネットの設置です(写真2)。

地上部分から2階程度までは仮設の養生(防護棚)的な簡易足場を設置し、また屋上から養生ネットを設置し、飛散防止をするようにしました。

当初はこの発想がなく、塗装工事の依頼はほとんどお断りしていました。それまで部分的塗装工事で多数のクレームをいただいていたため、全面的な外壁塗装はできないと思い、お断りしていたのです。

しかし、この「簡易足場+養生ネット」を設置する方法を取り入れてから、作業員も神経を尖らせずに済むようになり、安全かつ安心して塗装工事に取り組めるようになりました。

いまでは部分的ではありますが、作業面積が広くない塗装工事程度であれば施工できるようになり、無足場でも品質が保証できるレベルにまで上達しました。

創意工夫が塗装工事の成功の礎になったことを実感するとともに、特殊性、専門性が強い内容であることを思い知り、改めて奥深さを感じています。

次回も引き続き、塗装工事の苦い話をお伝えしたいと思います。乞うご期待!!

外装メンテはプロにご相談ください!

東京外装メンテナンス協同組合 (TEC)

●<http://garakuri.com/>

●TEL.03-5817-6977